

第19回 議会運営委員会記録

- 1 日 時 令和4年12月6日(火) 午後1時30分 開会
- 2 場 所 議会委員会室
- 3 出席委員 6名
- | | | | |
|------|---------|-----|---------|
| 委員 長 | 霜 鳥 榮 之 | 委 員 | 村 越 洋 一 |
| 委 員 | 高 田 保 則 | 〃 | 天 野 京 子 |
| 〃 | 阿 部 幸 夫 | 〃 | 渡 部 道 宏 |
- 4 欠席委員 2名
- | | | | |
|---------|---------|-----|---------|
| 副 委 員 長 | 関 根 正 明 | 委 員 | 岩 崎 芳 昭 |
|---------|---------|-----|---------|
- 5 欠 員 0名
- 6 職務出席者 1名
- | | | | |
|-----|---------|---------|----------|
| 議 長 | 佐 藤 栄 一 | (副 議 長 | 高 田 保 則) |
|-----|---------|---------|----------|
- 7 説 明 員 0名
- 8 事務局員 2名
- | | | | |
|---------|---------|---------|---------|
| 事 務 局 長 | 阿 部 光 洋 | 庶 務 係 長 | 霜 鳥 一 貴 |
|---------|---------|---------|---------|

9 件 名

○事件

1. こども議会の総括について
 - 1) 当日の所感(資料①、資料②の子どもたちの感想を含めて)
 - 2) 子どもたちが検討していた再質問(再提案)に対する対応
2. 次年度以降の取り組みについて
3. その他

○委員長(霜鳥榮之) それではご苦労さまです。午前に引き続いてでお疲れのところでございますけども、ただいまから議会運営委員会を開会いたします。議長。

○議長(佐藤栄一) お疲れ様です。11月22日のこども議会の開催には議会運営委員会のメンバーの皆さんには大変お世話になりました。ありがとうございました。当日の質疑を通してまた新たな課題も出てきたと思うので、その辺の認識をしたり、今後、議運としてこれらについてもご協議いただきたいと思いますので、よろしく願います。

1. こども議会の総括について

- 1) 当日の所感(資料①、資料②の子どもたちの感想を含めて)

○委員長(霜鳥榮之) はい。会議に入る前に、副委員長の関根さんは、午後から衛生管理の関係かな、っていう形をもって、今後の絡みあるんで、そこは参加しないわけにいかないっていうことでありました。で、岩崎委員については午前にも引き続きっていうことで、このメンバーでっていうことになりますので、ひとつよろしく願います。

ます。それでは、まずは、こども議会の総括について、ということでお願いをいたします。当日の所感についてです。こども議会に参加した生徒たち、さらに学校でY o u T u b eを通じて、そのこども議会を視聴していた3年生の生徒たちから感想をいただきました。資料で提供した通りです。これらも踏まえながら、こども議会について、実施してみて、委員の皆さん、お1人お1人から所感をいただきたいというふうに思っております。時間は、適当にという形で制限しておりませんが、無駄な時間でだらだらとってという形ではちょっとなんで、まずは全体の流れと役割分担の関係から、それぞれにお聞きをしたいと、ご感想をお願いしたいというふうに思います。

最初に、総合進行、私のほうからなんですが、心配していた以上にスムーズにいったなど。皆さんのご協力のおかげだというふうに思っております。中学生生徒の皆さんも、緊張があったかもしれないけども、こちらの指示に従ってスムーズな行動、対応していただいたなどというふうに思っております。中身についても、ほとんど時間通りって、予定時間通りっていう形でもって進行させていただきました。本当にありがとうございました。事前にいろいろと打ち合わせをさしてもらったり、学校へは何回か行ったり。先日も終わってから、28日の月曜日に、学校のほうに議長と正副委員長と事務局とでもって、お礼に行ってきました。で、非常に学校側のほうからも感謝されていまして、特に校長からは、1回で終わらなくて、今後も、視野に入れておいてくださいって。逆にそういう声も聞いてきたんですけども。これはまた改めて相談もしていかなきゃいけないなど。ただ、学校の予定というのが、2月頃にみんな決まってしまうっていうかね、があるんで、その辺のところも、今ここで即、でないんですけども、後でまた、具体的に相談しながらということになると思います。時期的にどうなのかって聞いたときには、やっぱり今年と同じような時期なんだと。と言うと、来年の改選以降ってということになりますんで、ただやるかやらんかの方針・方向だけは早めに決めておかないと予定が組めないっていう位置付けでありますんで、それも一つ頭の中に置いてください。そんなことで私のほうは、そんな形なんですが、次、生徒の誘導、それから議員誘導はないけど、傍聴席に誘導というような形でもって、またお聞きしたいと思います。

まず最初に生徒の誘導の関係ですが、岩崎委員はいませんので、村越委員。

○村越委員 生徒の誘導を対応しました。まず下のほうからですね、ずっと上がっていくときに、エレベーターでいかそれとも歩いて上がるかということで。そこら辺、あったんですけど。子どもたちにすれば、もう歩いて上がっていくというふうに決めていたようなので、その点はスムーズだったと思います。あと誘導に関しては特に複雑な、動作を必要とするものもなかったんで、それについては、特に問題はなかったんじゃないかなというふうに思います。これについては、しっかり決めてそのようにっていうよりは、臨機応変の部分が多いと思うので、そういうふうに対応していけるようにやっていけば、大丈夫なんじゃないかなというふうに思いました。あと、椅子を片付けたりテーブルを片付けたりという役割もあったんですが、それについても、特に問題なく、できてよかったかなというふうに思います。もし、もっと定期的な、開催になったり、もっと頻繁にやるような形の中でやるのであれば、その椅子やテーブルはどういうふうに移動したらいいか、もうちょっと仕組み的に作ったほうがいいのかなと思いましたが、1回のもので仕上げるということだったので、非常によかったと思います。問題なかったんじゃないかなというふうに思います。

○委員長（霜鳥榮之） はい。ありがとうございました。それでは傍聴席誘導の関係で、阿部委員、天野委員、渡部委員、三人いますけども。それぞれに、どっからでも。はい、天野委員。

○天野委員 まず、3人必要がないなということで、委員長にいろいろ負荷がかかるので、阿部さんからは議席にいてくださいと言って、私と渡部さんで対応しました。2人来られただけでしたので、忙しくもなく、スムーズだったかなあと思います。以上です。

○渡部委員 今ほど天野さんおっしゃったみたいに、もっとたくさん来られるかなと思ってたんですけども。多分これは、

もうちょっとPRしたほうがよかったのかなっていう気がするんですよね。本来なら子どもたちの様子みたいって言って、前回のね、議場でコンサートの時はタップリ来ましたよね。だけど今回、本当2人しか来られなかったってことは、それがあることが知られていないか、もしくは自分が出るんだけど恥ずかしくて親に言えなかったってところもあるかと思うんですよね。ですんで、本当に開かれた議場っていうのを目指すのであれば、もうちょっと前から、子どもたちの出番こんなふうにあるんだよっていうPRするべきだったのかなと思いました。あと、その方々が入っていられるんですけども、我々の誘導なんかは特にいらんかなと。張り紙だけで十分だったかなというようなどころでございまして、次回もしかしたら、いらんかもしれないなと思いました。以上です。

○委員長（霜鳥榮之） はい。ありがとうございました。

○阿部委員 天野委員のほうから報告あったように、配慮いただきました。実際、2人の方から動いていただきました。

私も見てて、保護者の方が少なかったなという感じを受けましたので、今後どのような形で多くの方から参加いただくか、改めて少し、次の時はいろんな対応を考えたほうがいいのかというようなことを付け加えて感想とします。

○委員長（霜鳥榮之） 傍聴のからみについては、保護者っていう位置付けでいたものですから、案内文のからみについても、学校へ話をして学校任せで対応していたっていうのがありますんで。結局、今言われたように、結果集約っていうか、そっちも、こっちも対応しなかったというのがありますんでね。それでもって当日も、その様子がちょっとわかんなかったというような形ってありましたけども。今、渡部委員から言われたように、今後の対応としては、そこまでちょっと配慮したほうがいいのかと。こちらとしては結局こういうそのイベントっていいですかね、ことをやることによって、もっと議会を市民の目に映るようになっていう、そういう位置付けもあるものですから、今後の対応のための課題として、残しておくという形をとりたいたいというふうに思います。それでは、答弁の関係、それから再質問に対する答弁の関係、この辺について、それぞれにご意見をいただきたいというふうに思います。まず、市長役の議長から。議長。

○議長（佐藤栄一） 非常に子どもたちが緊張した顔で聞いてくれて、私、しゃべってるほうまで緊張したような感じもあったんですが、皆さんの委員会で各々まとめてくださった答弁書を読ませていただいたんですが、それなりにわかりやすかったのではないかなというふうに思ってますし、子どもたちの感想にも、答弁が非常にきちっとしてくれたって、喜んだ感想もあったんで、その面ではよかったと思ってます。ただ、私1回答弁忘れて、自席へ戻ってしまったのが失敗しましたんで、その辺はよく確認してからやりたいと思います。

○委員長（霜鳥榮之） はい。教育長役の副議長。

○高田委員 私のほうの質問は、あの通りでございますけども、答弁のほうはですね、随分委員会のほうで、綿密に作っていただきまして、非常にスムーズな答弁だったというふうに感謝申し上げたいと思います。ただ、この感想を見ますと、タブレットの使い方が周知されていない、知らないっていうようなことも書いてありましたので、その辺もこれから学校のほうでどういう対応するかわかりませんが。生徒が、そんなところで勉強になったんじゃないかなというふうに思います。大変ありがとうございました。

○委員長（霜鳥榮之） はい。ありがとうございました。それでは、それぞれ常任委員長さん、どっからでも結構ですが…。村越委員。

○村越委員 厚生文教委員会の委員長としてですね、教育部局の教育長さんの答弁書かせていただいたりですね、再質問に答えたりさせていただきました。答弁と再質問の関係ですけども、何といたっても勉強になったというのが一番でして、いかに何て言うんですかね、自分の書いたものを読んでいただくものの立場としてですね、非常に大変なんだなっていうのを感じました。そういう意味で、自分の議会でのですね、対応っていうか、そういったものに

も反映できて、非常に個人的にはよかったなという気がします。あと、感想等を見てですね、やはり子どもたちも、ものすごく勉強になったというのが感じましたので、こういった機会を作ること、そのものがすごく大事な取り組みだったんだなというふうに思いました。あと、再質問の関係なんですが、ちょっと私、再質問の答弁、一つさせていただきましたが、子ども教育課長に対する質問だったんですが、ちょっと私何て言うんですかね。失敗してというか、市長部局の答弁もちょっとしちゃったんですね。その辺、できれば多めに見ていただけるとありがたかったんですけど、そういったところとか、なかなかやっぱり全体を把握しながら進める部分で難しかったかなと思います。あと、私たちの委員会の所管として、再質問は、それぞれ委員のほうに割り振ってやろうということで、私1人が勉強してもあれなので、皆さんにも勉強していただいたというところが、それでもよかったんじゃないかなというふうに思います。以上です。

○委員長（霜鳥榮之） はい。一番質問の多かった阿部委員。

○阿部委員 私ら、産業経済委員会のほうでは、議長答弁のまとめについては、率直に言って、なかなか委員全員が6人いたわけじゃなくて、非常に5人という中で、全体の流れとしては、最後はもう委員長に任せますっていうような形になりましたけれど。そうは言ってもこちらのほうから、いろいろと各委員に投げかけながらですね、これはどうだろうかというやりとりをさせていただきながら、勉強させていただいたし、議会側のほうが、市長答弁がすごくいろんな形で情報収集しながらですね、いろんな角度でコンパクトに回答を作ってるんだなというようなことが非常に私も参考になりましたし、改めて、新たな気持ちになったかなというふうに思います。同時に再質問の関係では、どんな質問が出てくるのかなと。こういうことで、非常に私のところは、観光的なところが集中的にやりましたし、また再質問等々でもですね、情報の提供のあり方については、ITを活用したというような形でもありましたけれど、いろんな学校との子どもたちの制約やら、いろんなこともあったりして、あまり冷たい言い方で、ちょっともう少しまろやかな答弁の形にすればよかったかなというふうに思いましたけれど、使用はそういう形で、できないものはできないという形で答弁をさせていただきました。ただ感じたことはですね、産業経済委員会の中でいろいろ出たのは、率直に議運のほうでいろいろ指導的な形でまとめて進められてることは、それはそれとして大事なことだけれど、もう少し今後の中では、当初議員のいろんな意見を聞いて作り上げて、いろいろ市民との対話、さらには、学校とのこども議会等々になってきてるわけですけども、もう少し事前の時間を割いた形で議員の意見をもう少し作り上げた形ですね、まとめ上げた形でもう少し進めるような形を次の段階でとってたらどうかという意見もありましたので、高校生との広報広聴委員会のほうの、あれはありますが、これから全体的に通して、市民と議員とのやりとりの中は、もう少し議運だけじゃなくて、議員全体が、そのことに対して、一つになるような進め方、時間のかけ方、等々をですね、もう少し研究していったほうがいいんじゃないかなと。そうするとやっぱ今後、人材の育成も含めて、私らも勉強になってきますので、その点ぜひともですね、大変だろうと思いますけれど、もう少し時間をかけたらどうかということを述べて、まとめさせていただきます。以上です。

○委員長（霜鳥榮之） はい。ありがとうございます。それ以外の委員の皆さん、気楽にっていうと失礼なんだけれども、全体をきちんと余裕を持ちながら、雰囲気を見てることができたと思うんですけども、率直なご感想を…。

○阿部委員 さっきちょっと時間あったから、いろいろ読ませさせていただきました。子どもが率直に感じてることをですね、議場にこられたメンバーの皆さんの気持ちっていうか、その立場にたってですね、刻々と時間が迫ってくるというのがですね、非常にわかりやすい書いてるし、また、自分はどうしたらいいんだろうかというですね、戸惑いなんかは、私が議員になったときの想いと一緒のようなですね、形をこう書かれているなというふうに思いました。従ってそういう点では非常に、緊張感の中に、自分がどのような位置に立っていたらいいのかということ

をですね、勉強されたんじゃないかなというふうに思います。同時に教室のほうにおられた皆さんの文を読むと、割と余裕を持ったですね、第三者的な形でですね、自分はこう感じだとか、自分はこう思ったとか、そういうような形での表現が多く感じましたし、いずれにしましても、子どもたちは何か一つですね、こういう機会において、すぐではないんですが、来年か再来年にみんな子どもたちが何かに参加する。何かを作る。例えば私思ったんだけど、クリスマスがあるとすれば、駅前にですね、イルミネーションを作ってみるとか、そんな立派なものを作らなくてもいいけど何かやってみる、というようなことをですね、少し考えてもらったり、まち中の活性化に、一つは、参加してもらったりとか、そんなことをですね、ちょっと感じましたので、報告とさせていただきます。以上です。

○渡部委員 私、子どもたち、大分なめてました。いや、この質問の内容っていうのは、下手すれば我々を凌駕するぐらいの、確かにポイントを突いていたし、そして我々の回答の仕方も、ある程度、もっとレベルを下げてしゃべらなきゃいけないんじゃないかなと思ってたんですけども、ちゃんと子どもたちは理解してるんですよね。それで私はそこで感じたのは、今回一般質問やなんかでも、我々が質問するときは、一般市民、その中学生も見てるんだってことを意識しながら、もっとわかりやすい言葉で、市民に伝わるような質問の仕方をしなきゃいけないんじゃないかなっていうのを学びました。でも本当に子どもたち、あの質問、本当に君らが考えたのっていうような内容だったし、回答についてもちゃんと理解しているってところに、すごくびっくりしたっていうのが本音です。以上です。

○天野委員 まず岩崎委員長、今日欠席ですので、総務委員会が答えた内容ですけど、主に人口減少問題や、防災のことを私たちは答えたんですが、子どもたちが、実は非常にやる気があって、声かけてくれれば協力したいんだっていう気持ちが今回酌み取れたので、これは今後、私達も行政側にも、また、学校側にも、何かの形で、若い人たちのパワーをいただきながら、要するに、地域共生っていうことでは自助共助につなげていけるといいかなと思いましたので、非常に勉強になりました。で、もう一つは今回主権者教育ということで、こども議会って名前なんですけど、こども議会って名前でもいいのかなと。何か若者議会ぐらいの名前にしてあげないと、子ども扱いすると大変なことになるという気がしたので、小学生ならこども議会でいいんですけども、ちょっとこの大人と子どものはざまのね、彼ら彼女たちに対しては、もうちょっとリスペクトした扱いをしてあげたらどうかと思いました。あと、親御さんがこなかったのは、一つは、前回合唱やった時は夕方だったと思いますし、帰りは親が迎えに来てね、みたいなのがあったけれども、今回学校の教育の一環なので、どうしても親御さんは休んでまで平日こないかなと。だから、逆にしょうがないと思うんですね。で、逆に学校にいて、リモートで見てた人、子どもたちを議場に入れたほうが、生の空気感を味わせてあげられるので、そっちのほうが有効的だったかなと思いました。とにかく一番勉強になったのは、私が一番勉強になりまして、本当に、今回は佐藤議長の強力な推進と、議運の私たちが何としてもやろうという思いでやられたことだと思うんですけども、でもやっぱり続けるってこと大事なんで、ぜひ、来年度も学校と協力しながらやって欲しいなと思っております。

○委員長（霜鳥榮之） それではですね、今度その子どもたちの再質問の関係、或いはせっかくもらった文書の関係、感想文の関係。その辺も含めた中でもって、もし何か皆さん感じた点がありましたら、お聞かせいただければというふうに思います。先ほど渡部委員からもありましたけども、確かなめてかかるわけにはいかないっていうのは、以前にも皆さんに報告しましたが。17日のリハーサルに行ったときに、動きを説明して、そこでもって若干練習をやっただけなんですけども。当日、議場に入ったときに、全然、動じることなくスムーズに動いてくれたっていう辺りの、いわゆる彼らの真剣に向かっているっていう、その姿勢と理解力っていうかね、その辺のところ、非常に私も感心しましてね。これは、さっきどなたかの意見にもありましたけども、なめているわけじゃないけども、そんな安易な気持ちで向かっていくわけにはいかないなっていうあたりがね。誰だったかな、誰かの意見であ

ったのは、ちょっと誰だか記憶してないんですけども、マスコミだったと思うんですけどね。普通の本会議やってる雰囲気ですね、って言われたんですよ。だから、確かにそうだなと思ったんですけどね。そんなのも含める中で、或いはその子どもたちの感想文を含める中で、もうちょっとその中身、深めていって。ここでまとめたそれそのものを今後の活動に生かしていくっていう形づくりについても、ちょっと皆さんと相談したいなというふうに思います。若干休憩します。

休憩 午後 1時55分

再開 午後 2時19分

○委員長（霜鳥榮之） 休憩を解いて会議を続けます。いろいろ忌憚のないご意見をいただきまして、ありがとうございます。特に今、ここでまだ、まとめていうわけにいかないんですけども、今、子どもたちから出された、この振り返りワークシートのこの中身、それから議場でもって答弁できなかった、時間の関係でもってね、質問答弁のできなかった部分について、これらをどのように対応していくか。細かく話しているとちょっと時間がなくなってしまいうんですけども、率直に、それぞれ、ご意見等いただきたいと思いますが…。タブレットの関係ありましたんで、村越委員。

○村越委員 少なくとも、所管分けして、質問が来ていて、それでそれに対する再質問で答えられてない部分がありますので、今初めてっていうか、いただいて初めて見る部分もあるので、それについては各委員会のほうで意見交換するような場を設けて、お話し合いをしたらいかがかと思います。

○委員長（霜鳥榮之） はい。他にどうですか。今の意見だけでいいですか。他にどうですか。

○天野委員 自分たちが関わった設問というか、質問は、自分たちの所管でしょうから委員会で生かすか、それとも何かの機会をとらえて一般質問で形を作っていくか、ちょっと委員会で相談させてもらえるといいかなと思います。多分、分けたときに、得意な分野に分かれたはずなので、何かやっぱり中学生に返してあげないと、例えば3月議会であなたの意見を、皆さんのグループの意見をこういう形にして市長に聞きましたと。それが最終的に大事なかなと思いますので、そこまでできるように、ちょっと議運で、ストーリー作ったらいいかなと思うんですが、どうですかね。

○委員長（霜鳥榮之） はい。その点どうですか。私個人的には、今これをやってね、資料皆さんのとこへみんなお返しをしてっていうかね。で、今回の委員会の中で、委員会終わってからでもいいと思うんですけども、その今天野委員が言われたように、その対応ね、そこでちょっと相談してもらって、次のステップに行ければいいなっていうのは私の気持ちではあるんですけども、その辺は…。阿部委員。

○阿部委員 いろいろ考え方あると思うんですが、私、思うには、当日それぞれ議員皆さん出てきているわけですから、議運、議運ですね、まとめて次こうしたらいいとかじゃなくて、やっぱり全体の意見を聞いてですね、それで、どうなのかと。それぞれ委員会では委員会としての話し合いは当然あるんですけど。この議員としての全体をまとめるということが私は大事であって、今、軽々にですね、次々というよりも、この総括をきちっとやってですね、その上で、次どうしようかというまとめ方のほうが、その上で議運としてこういう意見があるんだけどどうなんだというまとめ方をしないとですね、私はやり方としては、ちょっとちぐはぐになるんじゃないかなというふうに感じますし、ぜひともそういうやり方をですね、積み上げをしていって欲しいと。そうでないとまたそれぞれの議員の、一人一人に個人差が出てきてですね、なかなか議運がやろうとしてることに近づかなくなってしまうんじゃないかなという思いがあります。

○委員長（霜鳥榮之） 暫時休憩します。

休憩 午後 2時23分

再開 午後 2時26分

○委員長（霜鳥榮之） 休憩を解いて会議を続けます。今、高田委員から提案がありまして、結局のところ、この子どもたちの感想も含めてなんですが、議事録をまとめて、皆さんにお配りして、今議会の常任委員会の時、その委員会終わってからでいいと思うんですけども、その中でもって、再度それを皆さんで意見交換してもらって、それについてのまとめといいますかね。率直な意見。それから再質問でもって、答えてなかった分の扱いについてどうするか。どうするかじゃなくてできれば、村越委員からもありましたように、そこところは本来でいくと質問しないから答弁しないんだけども。だけど今回はそういう形で出てきているものについては、ちゃんとやっていこうという形でどうかと。それをまとめて返していくと。それによって次のステップ、また違った形が出てくるかなと思うんです。とりあえず委員会でそれを、確認まとめるということに決めてもよろしいですか。

○阿部委員 それについてはね、委員会で答え出すにおいては、やりますとか。

○委員長（霜鳥榮之） そんなのない。

○阿部委員 ただ、まとめればいいんですね。

○委員長（霜鳥榮之） うん。

○阿部委員 まとめればいいんですね。それだったらそれでいいです。

○委員長（霜鳥榮之） はい。そういうことでお願いいたします。それでは、次に、大きな2番の次年度以降の取り組みについてということでもって、皆さんからご意見をいただきたいんですが。その前に、議長からありましたら。佐藤議長。

○議長（佐藤栄一） はい。今回の取り組みにつきましては、昨年11月に、教育長のほうに相談をさせていただきまして、いいね、これやったほうがいいんじゃないのって話をさせていただきました。その時には、1月の校長会に、議長さん、おまん出てきないと、説明しないとされたんですが、コロナの関係あったりして出ないで終わってしまったのと、中学校の校長さんがちょっと不祥事を起こしたので、停滞しましたが、やっぱり時間がかかりました。議運にも、これはかなり前から、やりたいっていう声は出してきたつもりであります。そして全協にも声かけながら来て、時期的には本当は夏と思ってたんですが、学校側のほうから、11月のこの時期ということになって、丸1年かかる仕事になってしまいました。でもおかげでコミュニティスクールの皆さんも一緒に、裏では参画していただきつつあったというのを聞きまして、これ非常によかったかなというふうに思っております。来年も同じような時期にやって欲しいというのが、新井中の校長さんのご意見でした。やろうとすれば、今度は、妙高高原中か、妙高中を使って、やっていったほうがいいんじゃないかなという思いはしてるんですが、ただ問題は、我々の任期は7月で終わりでございますんで、その先のほうまで予定していいのかという問題があるんですが、基本的には、11月頃にまたやっていただければなという思いであります。以上です。

○委員長（霜鳥榮之） はい。ということでございますけども、はい高田委員。

○高田委員 私も賛成です。私もさっき言ったものは、私の本心ですけども。でも議会でも議員力というふうになると、もう一方で、今、議長のおっしゃったような形で、たぶんレベルアップしてると思うんですよ。対外的にも、こども議会をやってることになれば、やはり、議会を見る目も変わってくると思いますし、この制度は、ぜひ続けていきたいと思っておりますし、任期がどうのこうのじゃなくて、妙高市議会としての方針だということになれば、別に議員が変わろうが変わるまいが、議会の方針ということになれば、別に、今決めてもいいと思っておりますし、ぜひ続けてやっていただきたいというふうに思います。もう一つは、今回もいろいろ6班ですか。いろいろな意見、質問が出たんですけども、なかなか受け答えするほうが多分難しかったと思うんですが、その辺の整理も、ちょっとこれからしていったほうが、もうちょっとスムーズになる、運営ができるんじゃないかなというふうに思うんですが。ち

よっと今、どういう方法がいいか、ちょっと私お話できませんけども、これからの検討課題かなというふうに思います。それと、今の時間の問題もね、あわせて解決できるような方法もあればというふうに思います。以上です。

○委員長（霜鳥榮之） 他にどうですか。

○渡部委員 来年度、実施するというの、私も賛成なんですけど、仮なんですけど、これできるかどうかわかんないんですけども、先ほど高田委員とかおっしゃったみたいに、当局に対しての質問をするという今度、議会の形にして、16人の議員になったとしたら、議員お2人ずつで8班作って、中学生とその議員の1組をタッグにすると。それで質問の仕方はその2人の議員がアドバイスしながら、こう出ると、当局に対してぶつけていくと。そういうのができれば、逆に面白いかな。それ、議員としても質問の練り方を子どもたちに教えながら自分でね、こういう言い方したらどうだと、ああしたらどうだと、それでそれを子どもたちが本当に言えば、今度は当局に直に言えるわけだから、当局はそれに真摯に答えてもらおうと。我々の力にもなるし、子どもたちも、議会の内容もね、議員も絡むし、当局も絡むっていうのができれば何かいいかなと。今、思いつきです。

○委員長（霜鳥榮之） はい。そういうやり方になると、例えばの話。議員がいなくても議会が運営できると…。

○渡部委員 子どもたちが並んでる横に、議員がアドバイザーとして2人でついて、こうやってみて、質問とかってこう言ったら、そここう言つてとかってアドバイスを飛ばしながら当局に対してやる。そうすると、議会の中で議員さんがバックについているんだっていうのは、わからんですかね。やっぱり難しいですかね。

○委員長（霜鳥榮之） はい他にどうですか。天野委員。

○天野委員 傍聴席に教育長おられましたよね。教育長の感想、例えば、今ずっと議論になっていた当局側がいいのか、それとも今回みたいに議員力を付けるために、議員でいいのか。あと、どうしても回答が、検討します、やりますは言えなくて、やっぱり言いにくい。議員の答弁はそうなりますけど、それについても違和感がなかったか。ねらい通りだったかっていうのの感想が聞けるとちょっと参考になると思うんですが。教育長の、ぜひ、ご意見聞きたいなと私は思います。

○委員長（霜鳥榮之） 他にどうですか。はい。今、天野さんからのね、意見でもって教育長の感想っていうのも、これも大事だと思いますし、最初に議長から言われたように、早めに、委員会のほうにも打診しておかないとっていう、この辺もありますし。議員が絡んでって言った時には、生徒と一緒にってそこんこでもってやりくりしていくと、生徒の自主性そのものよりも、議員の影響力のほうがでかくなっちゃうと果たしてどうなのかっていう、その辺もあったりして。それと同時にね、議会でやるっていう位置付けの問題と、当局に答弁させるっていう問題については、また、別の問題が、そこで生じてくるという問題があると思いますんでね。だからどういう形でやるかっていうのは、議会でやるんだったら議会でもって基本的な方向性を出していかないとやっぱりうまくないかなというのが、私の考え方です。で、当局に答弁させてっていうことで中学生が言って、それに当局がね、予算絡みの事業なんかでやります、やりませんとかっていう、この辺の答弁についても、当局が答えてもなかなか面倒な部分なんです。そこでもって、こども議会だからって、当局に対してだからって言って、当局にそれをぶつけたときに、当局にやりますっていうと、我々議会はじゃあ、どうなんのって話にもなってくるんですね。

〔議員がついていけばいいんじゃないの〕と呼ぶ者あり〕

○委員長（霜鳥榮之） うんう。それは違う、異質のものです。だからそういうのも、そういうことを我々は、考えながら進めていかなきゃいけないということだと思うんですね。子どもたちは、先ほども触れましたけども、具体的に、ライフラインみたいな形の中でもって予算絡みのやつができるかできないかっていうことよりも、政策絡みの中でっていう形でもって。例えば今回の、先ほどちょっと触れましたけども、地域行事に参画するとかしないとかっていうのは、これは我々が直接、わかりましたとかやりますとかっていうこういう答弁じゃないんで。当局に言

ったってこれは同じことだと思う。当局だって、はいわかりましたってわけにはいかないよという類のものだと思うんですね。だからその辺のところはお互いに研究してくってということじゃないかと思うんです。で、例えば、産業経済委員会の中は、所管がいっぱいごとあるから、それと現場を抱えてるっていう形があるから、ここでの答弁ってなかなか面倒かもしれない。ただども出された質問項目について、具体的にこちらとしては分析をする中で、当局の意向を聞く中をもって、相談する中をもって、その答弁を作っていくってことになれば、それはそれでもって形ができるんじゃないかな。そういうとこに発展してくってということが必要だと私は感じています。そういうことを、これからも大いに研究しながら、次のステップへっていうことを考えていけばいいんじゃないかなというふうに思ったりしています。で、最初にあった時間の問題と、教育長の感想なんかも、それはそれでもって確認しておきながら、今後の形の中に生かしていくっていう、これはすでに計画段階でもって、時間の問題についてはね、計画段階でもって審議していかなくちゃいけない問題だというふうに思っております。そういうのも含めてまた、教育長とも相談しながら、それぞれ校長会の中でも発展させていけるような形ができるといいなと。今回初めてでありますんで、その結果が大いに今後の、そういう校長会とかね、という形の中に影響を与えていこうというふうに思っております。で、大体そんなような形で今後もじゃってというのは、高田委員が言われたように、議員が変わっても議会でもやる方向は、その方向は方向で決めとくということでありまして、そんな方向でいきたいなというふうに思います。で、そういうふうにもとめていきたいなというふうに思います。今まで議論、もろもろしてきましたけども、トータルで見た時に、まだ何かありましたら、ちょっと聞かせていただければと思います。

○村越委員 今回のこども議会に関しては、市民の皆さん方にも、議会だよりを通して、いろいろとPR、またされていくと思いますが、そこでまた上手にですね、今回の成果を出していただいたり、あといろんな質問が子どもたちからこんな出たっていう、紙面の関係もあると思いますけれども。そういった意見が、でも市民ですね、市民と子どもと議会とやりとりがあったってところをですね、ぜひ見せてっていただきたいなというふうに思います。それがまたいい方向になっていくような気がします。お願いします。

○委員長（霜鳥榮之） はい。なんか、広報公聴委員長。

○高田委員 先ほど議長が申し上げたね、開かれた議会、皆さんの理解ということで、非常に画期的なことを今回、7日に出前講座、22日にこども議会ってことで始めましたので、その辺を次回の議会だよりの中で、積極的に取り上げていきたいというふうに思っております。以上です。

○委員長（霜鳥榮之） はい。他に何かございますか。

○議長（佐藤栄一） 今、村越委員の言われた広報の件ですが、今、町内のほうに回覧版で、新井中学校の広報が回ってると思います。それにはちゃんと載っておりました。それを見ていただくと、中学校側からの考えていうか、感想がちゃんと載ってました。それから、市報の12月号には、これは載ります。そんな形で最終的には、また議会だよりで載せていただければ、広報になっていくと思いますので、そういったPRを通じながらやっていきたいなというふうに思ってます。それとさっき時間の問題があったんですが、中学校の授業時間の単元で動いてるものから、どうしても1時間以上長いのはできないんで。例えば今度5班にするとかという形で、班の数を減らすなりでやっていかなきゃ対応できないかなというふうに思っております。それから渡部委員言われた、議員と生徒が事前にこうを作り上げていくって話だったんですけど、上越市がそれをやってきたんですが、授業時間をかなりつぶしてしまってる。そういうのがあったりして、うまくいかない問題があって、今回、妙高市の場合には教育長非常にうまい判断していただいて、学校は学校側で進めさせてくれという形があったんで、こういう形をとらせていただきました。多分このほうが、生徒のほうにも負担が少なかったというふうに思ってますんで、またご検討の余地にしてください。

○委員長（霜鳥榮之） はい。ほかにどうですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（霜鳥榮之） はい。じゃあ特段ないっていうか、出尽くしたようでございます。皆さんからいただいた意見、それから、議事録をベースに、再度委員会の中でもって、それに対する対応も考えていただいて、それがまとまった時点で再度、議運を開いてこの後の対応っていうのを、今、出された中身をまとめて、次の議会報にも、これとこれはどうしてもってというようなアピールを含めながら、まとめをやっていければというふうに思っております。いつできるかって、それまた後程相談させてもらいますけども、とりあえず方向性としては、そのような形でいきたいというふうに確認させていただきたいんですけども、よろしいでしょうか。

〔「よし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（霜鳥榮之） はい。ありがとうございます。そのように進めさせていただきます。議長。

○議長（佐藤栄一） 先ほどの議事録の話が出ましたが、我々議会のほうで、これ勝手なわがままでこども議会をやったわけでございまして、事務局の皆さんには、議事録を作ってもらうのは余計な仕事なんでございます。その辺を理解していただいた上で、進めていただきたいというふうに思います。

○委員長（霜鳥榮之） はい。ということでございます。はい。じゃそういうことを踏まえながら、次のステップっていうことを考えていきたいと、対応していきたいというふうに思います。これにて、議会運営委員会を閉会といたします。ご苦労さまでした。

閉会 午後 2時44分